

おいしい水ができるまで

スタート!

琵琶湖 AR

わたしたちの生活になくてはならない大切な水。この水は、どのようにつくられているのでしょうか。

わたしたちの家庭や学校の蛇口まで送られてくる水は、日本一大きな湖である琵琶湖からそそがれる淀川の水を水源としています。

本市をはじめ近畿約1千400万人が利用しています。その水を取り入れ、浄水場の中の多くの施設を通過してきれいな水道水になり、それからまた長い道のりを経て、わたしたちの家庭や学校などへ届けられます。

問水道局総務課 TEL06-6991-6774



取水口

淀川の水をここから取り入れ、取水ポンプの圧力によって水を浄水場(水道局)に引き入れます。



不純物を沈めるための薬品を入れます。



さまざまな行程での必要な薬がそろっています。この段階では塩素を入れて消毒し、安全な水にします。



薬品注入棟



真っ暗で何も見えないね。中では、砂の層を通して、よりいっそう水をきれいにしているんだよ。キレイな水になってるね。



砂ろ過池



活性炭ろ過池

活性炭で、水中の臭いなどの元を取り除きます。

これは冷蔵庫などの臭い消しに使用されているものと同じなんですよ。



水道局中庭の地中

飲み水になった水は、公園などの市内各配水池にためられます。



配水ポンプ

圧力によって飲み水を家庭や学校、工場などに送ります。

配水池

水道局庁舎の地中



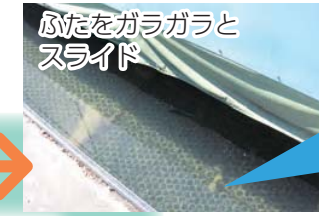
薬品が混ざった水



沈でん池

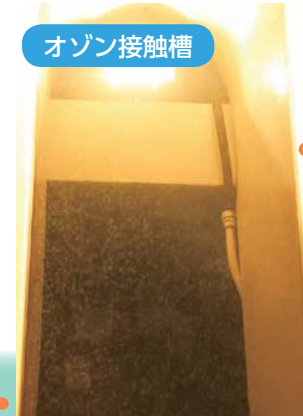


テロ対策のため、ふたをしています。



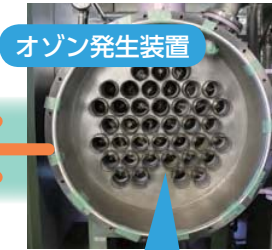
ふたをガラガラとスライド

ハニカム(六角形)状のすのこ発見! 小さな不純物を取り除き(沈める)、上澄み部分を高度浄水処理施設へ送ります。



オゾン接触槽

プクプクしているのは、オゾンを通った水。水泡が目に見えてわかります。オゾンによって、水の中に含まれている汚れを分解し、バイ菌を除去します。



オゾン発生装置



オゾン発生中は、紫色に光る放電を見ることができます。

高度浄水処理のしくみと効果 ~高度処理の必要性~

守口市の水源である琵琶湖は、生活排水の流入による富栄養化によりアオコなどが発生し、水道水の原水にカビ臭が発生していました。

また、水道水をつくる過程で発ガンのおそれがあるといわれている「トリハロメタン」が生成されることも問題となっていました。

しかし、これまでの処理方法では、安全性の向上を求めるには限界があり、また、市民ニーズでもある「おいしい水」を供給することが難しい状況にあることから、昭和62年度に「より安全で、良質な水」を供給するための高度浄水処理の実験を開始しました。

その結果、カビ臭は完全に除去でき、また、トリハロメタンなどの有機物質についても軽減効果が確認できるなどの好結果を得ました。そこで、平成4年度から6年計画で高度浄水処理施設の建設に着手し、平成9年10月19日に完成・高度処理水の配水を開始し、おいしい水がえられるようになりました。

おいしい水がゴール! できました



こうしてさまざまな過程を経て、蛇口をひねるとそのままゴクゴク飲むことができるキレイな水となります。その水は色々な場面で使われます。

例えば朝起きて顔を洗う水。食事のあとで歯をみがく水。そして、炊事や洗濯、お風呂などに使う水。

また学校へ行くと、給食の前や体操をしたあとに手を洗ったり、うがいをしたりする水。夏の暑いとき、プールに使われるのも水道の水です。

そのほか、工場、病院、商店をはじめ、自動車の洗車などにも水道の水がたくさん使われています。また、火事を消すためにも、水道の水が使われます。

このように、水はわたしたちの暮らしになくてはならない、大切なものです。これら以外にも、水の働きについて考え、大切に使いましょう。



お風呂



手洗い



飲み水



水遊び



歯磨き